

整理番号
109

事務事業評価表

令和５年度実施事業

部 長	課 長	係 長	担当者

事業名	伊達小学校改築事業					担当課	教育総務課
基本目標	3	未来を拓く人を育む教育・文化のまち				担当係	施設管理係
施策項目	2	学校教育				計画期間	令和５年度　～　令和６年度
主な取組	1	学校施設・設備の整備と適正規模・適正配置				事業区分	補助
予算科目	会計	款	項	目	大事業		
	1	10	2	3	学校建設費		

目的と方針【PLAN】	子どもたちが未来を拓く人材として心身ともに健やかに成長していくことができるよう、学校教育の充実を総合的に進めます。		
事業概要【PLAN】	伊達地域の基幹校である伊達小学校の教育環境の改善のため、事業計画に基づき改築を行います。		
対象【PLAN】	①小学校児童 ②小学校	意図【PLAN】	児童が安全で安心して学校生活を送ることができる。
意図の実現のために必要なこと【PLAN】	事業計画に基づき老朽化した校舎・屋内運動場を解体し、新たな学校施設に改築する。		

事業費【D0】		年度		04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
		単位		(実績)	(実績)	(予算)	(予算)	(予算)	(予算)
財 源 内 訳	国庫支出金	千円		297,891	343,139	0			
	都道府県支出金	千円		0	0	0			
	地方債	千円		1,358,200	1,571,200	546,500			
	その他	千円		117,505	327,811	28,897			
	一般財源	千円		672	62	0			
	事業費合計	千円		1,774,268	2,242,212	575,397			

(１)伊達市第３次総合計画実施計画の「数値目標」の進捗に関する評価【D0】								
指標名	単位	達成条件	区分	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
事業進捗率	%	実績値が目標値以下となること	目標値	70.6	100.0	100.0	100.0	100.0
			実績値	70.6				
			達成率	100.0%				

(２)チェック項目による評価【CHECK】			
	評価視点	評価の結果	
必要性	・市民ニーズについてどうか ・社会的需要についてどうか ・事務事業の優先度については高いものであるか	新市建設計画に基づき令和６年度の事業完了を目指している。新校舎が令和５年12月に完成し、新校舎にて３学期から児童が学校生活をはじめた。また、今後、地域の拠点施設としても活用できることから市民ニーズ、社会的需要、事業の優先度は高い。	
有効性	・施策項目の目標達成に向けた事業効果については期待できるか ・市民満足度についてはどうか ・社会貢献度についてはどうか	児童が安全に安心して学校生活を送れる教育環境を提供するため、改築することは非常に有効である。	
効率性	・費用を抑える工夫は行ったか ・時間を削減する工夫は行ったか ・当初の計画より規模を縮小できる余地はあったか	工法や資材の調達方法等の見直しにより経費削減を図った。	

(３)今後の方向性及び事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など【ACTION】			
今後の方向性	維持	事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など	タイトなスケジュールのなかで年度内に新校舎の完成を迎えることができ、計画を前倒しし、３学期より児童が新校舎での学校生活を送ることができたことは評価できる点である。今後は屋外整備工事及び関連道路改良工事の整備に向け、年度内に契約締結し、令和６年度の完成を目指し事業を進めていく。

整理番号
110

事務事業評価表

令和5年度実施事業

部 長	課 長	係 長	担当者

事業名	小学校施設維持管理事業				担当課	教育総務課
基本目標	3	未来を拓く人を育む教育・文化のまち			担当係	施設管理係
施策項目	2	学校教育			計画期間	令和5年度 ～ 令和7年度
主な取組	1	学校施設・設備の整備と適正規模・適正配置			事業区分	その他
予算科目	会計	款	項	目	大事業	
	1	10	2	1	学校管理費	

目的と方針【PLAN】	子どもたちが未来を拓く人材として心身ともに健やかに成長していくことができるよう、学校教育の充実を総合的に進めます。		
事業概要【PLAN】	小学校施設について、「伊達市学校施設等長寿命化計画」に基づき、予防保全型の施設改修を行います。		
対象【PLAN】	①小学校児童 ②小学校	意図【PLAN】	学校施設の維持管理
意図の実現のために必要なこと【PLAN】	・学校の要望に伴う学校施設の修繕 ・保守点検業者等からの点検結果（指摘事項）に基づく修繕、工事 ・長寿命化計画に基づく施設の改修		

事業費【D0】		年度		04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
		単位		(実績)	(実績)	(予算)	(予算)	(予算)	(予算)
財源内訳	国庫支出金	千円		0	0				
	都道府県支出金	千円		0	0				
	地方債	千円		0	0				
	その他	千円		492	26,340				
	一般財源	千円		56,577	62,649				
	事業費合計	千円		57,069	88,989				

(1) 伊達市第3次総合計画実施計画の「数値目標」の進捗に関する評価【D0】								
指標名	単位	達成条件	区分	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
トイレ洋式化率	%	実績値が目標値以下となること	目標値	—				
			実績値	—				
			達成率	—				

(2) チェック項目による評価【CHECK】		
	評価視点	評価の結果
必要性	・市民ニーズについてどうか ・社会的需要についてどうか ・事務事業の優先度については高いものであるか	児童が安全に安心して学校生活を送ることができるように、校舎や屋内運動場等の施設修繕が必要であることから、市民ニーズ、社会的需要、事業としての優先度は高い。
有効性	・施策項目の目標達成に向けた事業効果については期待できるか ・市民満足度についてはどうか ・社会貢献度についてはどうか	児童が安全に安心して学校生活を送ることができるように、学校施設の保守点検や修繕を行うことは有効であると考えている。また、避難所としての機能もあることから日頃からの点検が不可欠である。
効率性	・費用を抑える工夫は行ったか ・時間を削減する工夫は行ったか ・当初の計画より規模を縮小できる余地はあったか	・合見積りにより費用が安価な業者を選定している。 ・再利用できる資材があれば再利用する。

(3) 今後の方向性及び事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など【ACTION】			
今後の方向性	維持	事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など	予算不足で対応し切れなかった臨時修繕について、今年度は補正予算、運用・流用協議により計画的に予算執行ができた。限られた予算のなかで毎年の施設修繕費が増加傾向にあるため、学校からの要望に対応できない案件が増えている。次年度からの予算編成が課題である。

整理番号
111

事務事業評価表

令和5年度実施事業

部 長	課 長	係 長	担当者

事業名	中学校施設維持管理事業				担当課	教育総務課
基本目標	3	未来を拓く人を育む教育・文化のまち			担当係	施設管理係
施策項目	2	学校教育			計画期間	令和5年度 ～ 令和5年度
主な取組	1	学校施設・設備の整備と適正規模・適正配置			事業区分	その他
予算科目	会計	款	項	目	大事業	
	1	10	3	1	学校管理費	

目的と方針【PLAN】	子どもたちが未来を拓く人材として心身ともに健やかに成長していくことができるよう、学校教育の充実を総合的に進めます。		
事業概要【PLAN】	中学校施設について、「伊達市学校施設等長寿命化計画」に基づき、予防保全型の施設改修を行います。		
対象【PLAN】	①中学校生徒 ②中学校	意図【PLAN】	学校施設の維持管理
意図の実現のために必要なこと【PLAN】	・学校の要望に伴う学校施設の修繕 ・保守点検業者等からの点検結果（指摘事項）に基づく修繕、工事 ・長寿命化計画に基づく施設の改修		

事業費【D0】		年度		04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
		単位		(実績)	(実績)	(予算)	(予算)	(予算)	(予算)
財 源 内 訳	国庫支出金	千円		0	0				
	都道府県支出金	千円		0	0				
	地方債	千円		0	0				
	その他	千円		45,450	111,841				
	一般財源	千円		42,104	41,707				
	事業費合計	千円		87,554	153,548				

(1) 伊達市第3次総合計画実施計画の「数値目標」の進捗に関する評価【D0】								
指標名	単位	達成条件	区分	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
トイレ洋式化率	%	実績値が目標値以下となること	目標値	—				
			実績値	—				
			達成率	—				

(2) チェック項目による評価【CHECK】		
	評価視点	評価の結果
必要性	・市民ニーズについてどうか ・社会的需要についてどうか ・事務事業の優先度については高いものであるか	生徒が安全に安心して学校生活を送ることができるように、校舎や屋内運動場等の施設修繕が必要であることから、市民ニーズ、社会的需要、事業としての優先度は高い。
有効性	・施策項目の目標達成に向けた事業効果については期待できるか ・市民満足度についてはどうか ・社会貢献度についてはどうか	生徒が安全に安心して学校生活を送ることができるように、学校施設の保守点検や修繕を行うことは有効であると考えている。また、避難所としての機能もあることから日頃からの点検が不可欠である。
効率性	・費用を抑える工夫は行ったか ・時間を削減する工夫は行ったか ・当初の計画より規模を縮小できる余地はあったか	・合見積りにより費用が安価な業者を選定している。 ・再利用できる資材があれば再利用する。

(3) 今後の方向性及び事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など【ACTION】			
今後の方向性	維持	事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など	予算不足で対応し切れなかった臨時修繕について、今年度は補正予算、運用・流用協議により計画的に予算執行ができた。限られた予算のなかで毎年の施設修繕費が増加傾向にあるため、学校からの要望に対応できない案件が増えている。次年度からの予算編成が課題である。

事務事業評価表
令和5年度実施事業

部 長	課 長	係 長	担当者

事業名	教育用コンピュータ整備事業（小学校）					担当課	学校教育課
基本目標	3	未来を拓く人を育む教育・文化のまち				担当係	庶務管理係
施策項目	2	学校教育				計画期間	令和5年度 ～ 令和7年度
主な取組	1	学校施設・設備の整備と適正規模・適正配置				事業区分	その他
予算科目	会計	款	項	目	大事業		
	1	10	2	2	教育用コンピュータ整備事業（小学校）		

目的と方針 【PLAN】	子どもたちが未来を拓く人材として心身ともに健やかに成長していくことができるよう、学校教育の充実を総合的に進めます。	
-------------------------	--	--

事業概要 【PLAN】	情報化教育に即した授業・学校運営のため、児童用タブレット、教職員用タブレット、校務用パソコン機器を整備します。
----------------	---

対象 【PLAN】	伊達市立小学校の教師及び児童	意図 【PLAN】	新学習指導要領に求められる児童及び教職員の情報活用能力を育成するとともに、Society5.0時代の教育を支える学習環境を実現するため、児童に1人1台学習用端末を整備するもの。
--------------	----------------	--------------	---

意図の実現のために必要なこと【PLAN】	学習用端末の整備、ネットワークの構築を図り、児童及び教職員の学習環境を整える。
----------------------	---

事業費【D0】		年度 単位	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
			(実績)	(実績)	(予算)	(予算)	(予算)	(予算)
財 源 内 訳	国庫支出金	千円	0	0	0			
	都道府県支出金	千円	0	0	0			
	地方債	千円	0	0	0			
	その他	千円	445	445	495			
	一般財源	千円	102,091	111,168	113,448			
	事業費合計	千円	102,536	111,613	113,943			

(1) 伊達市第3次総合計画実施計画の「数値目標」の進捗に関する評価【D0】

指標名	単位	達成条件	区分	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
教職員へのタブレット導入率	%	実績値が目標値以上となること	目標値	100	100	100	100	100
			実績値	100				
			達成率	100.0%				

(2) チェック項目による評価【CHECK】

	評価視点	評価の結果
必要性	・ 市民ニーズについてどうか ・ 社会的需要についてどうか ・ 事務事業の優先度については高いものであるか	新学習指導要領において情報活用能力が、言語能力、問題発見・解決能力等と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置づけられ、小学校においてはプログラミング教育が必修化されるなど今後の学習に積極的にICTを活用することが想定されている。
有効性	・ 施策項目の目標達成に向けた事業効果については期待できるか ・ 市民満足度についてはどうか ・ 社会貢献度についてはどうか	学習用端末及び教職員端末の100%の整備、ネットワークの構築が完了している。 端末の修理・交換等もすぐに対応できるよう保守も整備している。
効率性	・ 費用を抑える工夫は行ったか ・ 時間を削減する工夫は行ったか ・ 当初の計画より規模を縮小できる余地はあったか	国の補助金を活用し、導入費用を抑えている。 各タブレット端末ごとの比較を行ったうえで、最適な端末選定している。

(3) 今後の方向性及び事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など【ACTION】

今後の 方向性	維持	事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など	児童及び教職員端末の整備、ネットワークの構築が整備できているため、今後も補助金を活用しながら、事業を継続・維持していきたい。
------------	----	-------------------------	--

整理番号
113

事務事業評価表

令和５年度実施事業

部 長	課 長	係 長	担当者

事業名	教育用コンピュータ整備事業（中学校）					担当課	学校教育課	
基本目標	3	未来を拓く人を育む教育・文化のまち					担当係	庶務管理係
施策項目	2	学校教育					計画期間	令和５年度　～　令和７年度
主な取組	1	学校施設・設備の整備と適正規模・適正配置					事業区分	その他
予算科目	会計	款	項	目	大事業			
	1	10	3	2	教育用コンピュータ整備事業（中学校）			

目的と方針 【PLAN】	子どもたちが未来を拓く人材として心身ともに健やかに成長していくことができるよう、学校教育の充実を総合的に進めます。		
事業概要 【PLAN】	情報化教育に即した授業・学校運営のため、児童用タブレット、教職員用タブレット、校務用パソコン機器を整備します。		
対象 【PLAN】	伊達市立小学校の教師及び生徒	意図 【PLAN】	新学習指導要領に求められる児童及び教職員の情報活用能力を育成するとともに、Society5.0時代の教育を支える学習環境を実現するため、児童に１人１台学習用端末を整備するもの。
意図の実現のために必要なこと 【PLAN】	学習用端末の整備、ネットワークの構築を図り、生徒及び教職員の学習環境を整える。		

事業費【D0】		年度		04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
		単位		(実績)	(実績)	(予算)	(予算)	(予算)	(予算)
財 源 内 訳	国庫支出金	千円		0	0	0			
	都道府県支出金	千円		0	0	0			
	地方債	千円		0	0	0			
	その他	千円		90	90	0			
	一般財源	千円		45,652	49,120	45,702			
	事業費合計	千円		45,742	49,210	45,702			

（１）伊達市第３次総合計画実施計画の「数値目標」の進捗に関する評価【D0】								
指標名	単位	達成条件	区分	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
教職員へのタブレット導入率	%	実績値が目標値以上となること	目標値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
			実績値	100.0				
			達成率	100.0%				

（２）チェック項目による評価【CHECK】		
	評価視点	評価の結果
必要性	・ 市民ニーズについてどうか ・ 社会的需要についてどうか ・ 事務事業の優先度については高いものであるか	新学習指導要領において情報活用能力が、言語能力、問題発見・解決能力等と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置づけられ、今後の学習に積極的にICTを活用することが想定されている。
有効性	・ 施策項目の目標達成に向けた事業効果については期待できるか ・ 市民満足度についてはどうか ・ 社会貢献度についてはどうか	学習用端末及び教職員端末の100%の整備、ネットワークの構築が完了している。 端末の修理・交換等もすぐに対応できるよう保守も整備している。
効率性	・ 費用を抑える工夫は行ったか ・ 時間を削減する工夫は行ったか ・ 当初の計画より規模を縮小できる余地はあったか	国の補助金を活用し、導入費用を抑えている。 各タブレット端末ごとの比較を行ったうえで、最適な端末選定している。

（３）今後の方向性及び事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など【ACTION】			
今後の方向性	維持	事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など	生徒及び教職員端末の整備、ネットワークの構築が整備できているため、今後も補助金等を活用しながら、事業を継続・維持していきたい。

事務事業評価表
令和5年度実施事業

部 長	課 長	係 長	担当者

事業名	適正規模・適正配置推進事業					担当課	教育総務課				
基本目標	3	未来を拓く人を育む教育・文化のまち					担当係	総務企画係			
施策項目	2	学校教育					計画期間	令和5年度　～　令和7年度			
主な取組	1	学校施設・設備の整備と適正規模・適正配置					事業区分	直営			
予算科目	会計	款	項	目	大事業						
	1	10	1	3	学校教育費						
目的と方針【PLAN】	子どもたちが未来を拓く人材として心身ともに健やかに成長していくことができるよう、学校教育の充実を総合的に進めます。										
事業概要【PLAN】	児童生徒が一定規模の集団生活の中で切磋琢磨することで、資質や能力を伸ばすことができるよう学校規模の適正化や適正配置、霊山地域の小中一貫教育を推進します。										
対象【PLAN】	完全複式学級である学校				意図【PLAN】	対象校が基幹校へ統合すること。					
意図の実現のために必要なこと【PLAN】	対象校の保護者と対象校学区の地域から基幹校へ統合することについて、同意を得ること。										
事業費【D0】		年度		04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度		
		単位		(実績)	(実績)	(予算)	(予算)	(予算)	(予算)		
財源内訳	国庫支出金	千円		0	0	0					
	都道府県支出金	千円		0	0	0					
	地方債	千円		0	0	0					
	その他	千円		0	0	0					
	一般財源	千円		3,333	2,613	2,195					
	事業費合計	千円		3,333	2,613	2,195					
(1)伊達市第3次総合計画実施計画の「数値目標」の進捗に関する評価【D0】											
指標名		単位	達成条件	区分	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度		
小中一貫校数		校	実績値が目標値以上となること	目標値	1	1	1	1	2		
				実績値	1						
				達成率	100.0%						
(2)チェック項目による評価【CHECK】											
	評価視点				評価の結果						
必要性	・市民ニーズについてどうか ・社会的需要についてどうか ・事務事業の優先度については高いものであるか				・次世代を担う子ども達が確かな学力を身に付け、豊かな心と体のバランスの取れた「生きる力」を育む望ましい教育環境の実現は、市民が教育行政に期待し、求めるところである。 ・子どもたちの現状から、適正規模・適正配置基本計画による事業は、喫緊の解決すべき課題であり、将来の本市を支える人づくりとして、最優先されるべきものと考えます。						
有効性	・施策項目の目標達成に向けた事業効果については期待できるか ・市民満足度についてはどうか ・社会貢献度についてはどうか				・望ましい教育環境で子どもたちが学ぶ姿には、保護者だけでなく地域からも安堵の声が聴かれた。 ・令和5年7月に実施した、基幹校である掛田小学校の児童・保護者・教職員へのアンケート結果から、学校生活への満足度が高いことが明らかになった。 ・月館学園小中一貫校の設立が、少子化が激しい地域において、中1ギャップ対策だけでなく地域に根差した学校創りに大きな効果を示し、社会貢献度が高いことが明確になった。						
効率性	・費用を抑える工夫は行ったか ・時間を削減する工夫は行ったか ・当初の計画より規模を縮小できる余地はあったか				・アンケートの設定問の設定及び依頼に関して、学校との連絡を密にすることで、収集や回収率の上昇に努めた。 ・継続して実施している霊山登山は、バス代のキャンセル料金を縮減できるよう実施の判断日や実施日の設定を工夫した。						
(3)今後の方向性及び事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など【ACTION】											
今後の方向性	維持	事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など			・教育行政として推進する「霊山の新しい教育」を具現化するため、教育部の各課と連携をとり小中交流など推進し、教職員の意識も高まりつつある。 ・今後は、霊山地域小学校の統合時期の明確化による小中一貫校設立準備委員会の設置等の準備が課題となる。教育行政に期待する声があがっていることから、機を逃さない進め方が求められている。 ・伊達市立小中学校適正規模・適正配置基本計画を見直す時期となることから、計画策定委員会を設置する等も今後の課題となる。						

整理番号 115					部 長 課 長 係 長 担当者				
事務事業評価表 令和5年度実施事業									
事業名	教職員の資質や専門性の向上のための職員研修				担当課	こども未来課			
基本目標	3	未来を拓く人を育む教育・文化のまち			担当係	幼保指導係			
施策項目	2	学校教育			計画期間	令和5年度 ～ 令和7年度			
主な取組	2	「生きる力」を育む教育内容の充実			事業区分	直営			
予算科目	会計	款	項	目	大事業				
	1	3	2	1	児童福祉総務費				
目的と方針【PLAN】	子どもたちが未来を拓く人材として心身ともに健やかに成長していくことができるよう、学校教育の充実を総合的に進めます。								
事業概要【PLAN】	市内の公立・私立全ての保育施設職員に対して研修会を実施し、職員の指導力と保育の質の向上を目指します。								
対象【PLAN】	市民：園児・保護者等 (研修を通して、保育者の質の向上を図り、子育てサービスの充実に努める)			意図【PLAN】	心豊かな園児の育成や子育て支援のため、職員の専門性を伸ばし、保育の質の向上を図る。				
意図の実現のために必要なこと【PLAN】	幼稚園・保育園・認定こども園と、教育・保育の形態や内容、住民のニーズ等が多様化していく中で、会計年度任用職員の増加や異施設間での人事異動等により、職員の保育に対する価値観や能力にばらつきが見られるという現状がある。質の高い教育・保育を提供するためには、職員のスキルアップにつながる研修の場が必要である。								
事業費【D0】		年度		04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
		単位		(実績)	(実績)	(予算)	(予算)	(予算)	(予算)
財源内訳	国庫支出金	千円		0	0	0			
	都道府県支出金	千円		0	0	0			
	地方債	千円		0	0	0			
	その他	千円		0	0	0			
	一般財源	千円		95	413	712			
事業費合計		千円		95	413	712			
(1) 伊達市第3次総合計画実施計画の「数値目標」の進捗に関する評価【D0】									
指標名		単位	達成条件	区分	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
研修会参加者数		人	実績値が目標値以上となること	目標値	100	120	130	140	150
				実績値	154				
				達成率	100.0%				
(2) チェック項目による評価【CHECK】									
	評価視点				評価の結果				
必要性	・市民ニーズについてどうか ・社会的需要についてどうか ・事務事業の優先度については高いものであるか				幼児教育が重要視されている国や社会の動きから、その意図を捉えた職員の研修事業の必要性は高い。				
有効性	・施策項目の目標達成に向けた事業効果については期待できるか ・市民満足度についてはどうか ・社会貢献度についてはどうか				今年度に企画した研修会については、年度を通して一貫性のある内容で進められた。そのため、保育者の保育に対する意識向上やより良い保育実践につながった。				
効率性	・費用を抑える工夫は行ったか ・時間を削減する工夫は行ったか ・当初の計画より規模を縮小できる余地はあったか				保育業務やシフト調整をしながらの研修会参加となるため、多くの保育者が参加できる内容、回数等の工夫に努めた。				
(3) 今後の方向性及び事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など【ACTION】									
今後の方向性	改善	事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など			コロナ禍以前の研修形態に少し戻れたこともあり、実際に公開保育等に参加できたことは保育者の学びになった。伊達市のめざす幼児像を明確に提示しながら、今後も保育現場の課題や保育者の要望に合わせた研修会の開催が必要である。				

整理番号		事務事業評価表 令和５年度実施事業				部 長	課 長	係 長	担当者	
116										
事業名		教職員の資質や専門性の向上のための職員研修（再掲）				担当課		学校教育課		
基本目標		3	未来を拓く人を育む教育・文化のまち				担当係		指導係	
施策項目		2	学校教育				計画期間		令和５年度 ～ 令和７年度	
主な取組		2	「生きる力」を育む教育内容の充実				事業区分		直営	
予算科目		会計	款	項	目	大事業				
		一般	10	1	3	教職員研修事業				
目的と方針【PLAN】		子どもたちが未来を拓く人材として心身ともに健やかに成長していくことができるよう、学校教育の充実を総合的に進めます。								
事業概要【PLAN】		国際化、情報化、児童生徒、保護者の多様化等、社会の大きな変化の中で、それらに対応するために教職員のさらなる研修の充実を図ります。								
対象【PLAN】		伊達市立幼稚園、小・中学校教職員			意図【PLAN】	教職員の研修機会と研修内容の充実により、一人一人の教職員の資質・能力を向上させ、学校全体の教育力の向上を図ります。				
意図の実現のために必要なこと【PLAN】		1 新しい時代の流れや教職員のニーズに応じ、より身近ですぐに生かせる研修講座を開設します。 2 「研修講座のしおり」を年度当初すべての教職員に配付し、研修の見通しを持たせ、受講を奨励します。 3 「研修受講記録」を作成し、研修で学んだことを振り返り、学びの成果を可視化できるようにします。								
事業費【D0】		年度単位		04年度 (実績)	05年度 (実績)	06年度 (予算)	07年度 (予算)	08年度 (予算)	09年度 (予算)	
財源内訳	国庫支出金	千円		0	0	0				
	都道府県支出金	千円		0	0	0				
	地方債	千円		0	0	0				
	その他	千円		0	0	0				
	一般財源	千円		7,940	7,718	9,703				
	事業費合計	千円		7,940	7,718	9,703				
(１)伊達市第３次総合計画実施計画の「数値目標」の進捗に関する評価【D0】										
指標名		単位	達成条件	区分	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
研修会に参加する教職員の人数		人	実績値が目標値以上となること	目標値	420	440	460	480	500	
				実績値	500					
				達成率	100.0%					
(２)チェック項目による評価【CHECK】										
	評価視点				評価の結果					
必要性	・ 市民ニーズについてどうか ・ 社会的需要についてどうか ・ 事務事業の優先度については高いものであるか				「教員の質の向上は、教育の質の向上に大きく寄与する」ことから、教職員の研修機会と研修内容を充実により、一人一人の教員の資質・能力を向上させ、学校全体の教育力の向上を図る本事業の優先度は、非常に高いものがあります。					
有効性	・ 施策項目の目標達成に向けた事業効果については期待できるか ・ 市民満足度についてはどうか ・ 社会貢献度についてはどうか				授業改善研修、ＩＣＴ教育研修、生徒指導研修、特別支援教育研修、幼保小連携教育研修、若手教員研修等、時代のニーズに応じた幅広い研修内容です。この中から教職員のニーズに応じて、希望する講座を選択して受講することができるようにしています。					
効率性	・ 費用を抑える工夫は行ったか ・ 時間を削減する工夫は行ったか ・ 当初の計画より規模を縮小できる余地はあったか				教職員の希望で講座を受講するだけでなく、講座の内容によっては、受講対象者を指定して研修する場合もあります。特別支援教育研修では、特別支援学級担任全員を対象としたり、いじめ対策研修では、生徒指導主事全員を対象にしたりしています。このように、研修の成果が各学校で反映できるようにしています。					
(３)今後の方向性及び事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など【ACTION】										
今後の方向性	改善	事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など			令和５年度の実生は５００名でした。令和４年度は４００名であったことから、大きく受講生が増加しました。年度当初に、「研修講座のしおり」を配付し研修の見通しを持たせたことや、各学校で積極的な受講奨励が行なわれたためと考えます。今後も時代の流れや教職員のニーズに応じた研修となるよう、一層魅力ある研修内容・方法にしていきたいと思います。					

整理番号
117

事務事業評価表
令和５年度実施事業

部 長	課 長	係 長	担当者

事業名	ICT活用による学習活動充実推進支援事業					担当課	学校教育課		
基本目標	3	未来を拓く人を育む教育・文化のまち					担当係	指導係	
施策項目	2	学校教育					計画期間	令和５年度　～　令和７年度	
主な取組	2	「生きる力」を育む教育内容の充実					事業区分	一部委託	
予算科目	会計	款	項	目	大事業				
	1	10	1	3	ICT活用による学習活動充実推進支援事業				

目的と方針【PLAN】	子どもたちが未来を拓く人材として心身ともに健やかに成長していくことができるよう、学校教育の充実を総合的に進めます。								
-------------	---	--	--	--	--	--	--	--	--

事業概要【PLAN】	ICT支援員のサポートによる円滑なICT機器の活用を推進し、充実したICT活用による学習活動や、市内全小学5年生と月舘学園小4～6年生、月舘学園中3年生へのロボットを活用したプログラミング教育を行います。								
------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

対象【PLAN】	伊達市立小・中学校 児童・生徒及び教職員			意図【PLAN】	ロボットを活用したプログラミング教育で児童生徒の情報活用能力の育成に取り組み、さらにICT教育サポーターやICT支援員が学校での活用支援を推進することで、ICTを効果的に活用した教育活動を実現する。				
----------	----------------------	--	--	----------	---	--	--	--	--

意図の実現のために必要なこと【PLAN】	- ICT支援員が、学校におけるICT活用を技術的な面から支援する。 - ICT教育サポーターが、学校におけるICT活用を教育的な面から支援及び指導助言し、活用の質を高める。 - ロボットを活用し、楽しみながらプログラミングの授業に取り組み、児童生徒に論理的思考を身に付ける。								
----------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業費【D0】		年度		04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
		単位		(実績)	(実績)	(予算)	(予算)	(予算)	(予算)
財 源 内 訳	国庫支出金	千円		5,316	2,731	0			
	都道府県支出金	千円		0	0	0			
	地方債	千円		0	0	0			
	その他	千円		0	0	0			
	一般財源	千円		40,641	39,185	36,070			
	事業費合計	千円		45,957	41,916	36,070			

(１) 伊達市第３次総合計画実施計画の「数値目標」の進捗に関する評価【D0】

指標名	単位	達成条件	区分	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
ロボットを用いたプログラミング教育を受ける児童生徒数	人	実績値が目標値以上となること	目標値	412	463	404	426	450
			実績値	420				
			達成率	100.0%				

(２) チェック項目による評価【CHECK】

	評価視点	評価の結果
必要性	- 市民ニーズについてどうか - 社会的需要についてどうか - 事務事業の優先度については高いものであるか	GIGAスクール構想による１人１台端末の導入より３年目となり、活用率の高まりとともに、情報活用能力の育成に加えて、機器のトラブルやメンテナンスへの対応の需要も需要も高まっており、事業の必要性は高い。
有効性	- 施策項目の目標達成に向けた事業効果については期待できるか - 市民満足度についてはどうか - 社会貢献度についてはどうか	ロボットプログラミングへの授業サポートや、ICT支援員やサポーターによる支援が、教員のスキルの向上を支えており、児童生徒の情報活用能力の向上につながっている。
効率性	- 費用を抑える工夫は行ったか - 時間を削減する工夫は行ったか - 当初の計画より規模を縮小できる余地はあったか	- 授業サポート時数を削減するなど費用削減の工夫を行った。 - 教員のスキルの向上を図り、支援がなくても学校でできることは自走できるようにする。

(３) 今後の方向性及び事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など【ACTION】

今後の方向性	維持	事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など	- ロボットプログラミングにおいて、児童生徒が楽しみながら授業に取り組み、論理的思考力の育成につながっている。 - 小・中学校におけるICTの効果的な活用を推進するため、学校の実態をとらえながら事業の運営を行う。
--------	----	-------------------------	---

整理番号
118

事務事業評価表

令和5年度実施事業

部 長	課 長	係 長	担当者

事業名	中 1 福祉施設ボランティア事業					担当課	学校教育課
基本目標	3	未来を拓く人を育む教育・文化のまち				担当係	指導係
施策項目	2	学校教育				計画期間	令和 5 年度 ～ 令和 7 年度
主な取組	2	「生きる力」を育む教育内容の充実				事業区分	直営
予算科目	会計	款	項	目	大事業		
	1	10	3	2	中 1 福祉施設ボランティア事業		

目的と方針【PLAN】	子どもたちが未来を拓く人材として心身ともに健やかに成長していくことができるよう、学校教育の充実を総合的に進めます。		
事業概要【PLAN】	高齢者に対する理解を深めるとともに、自己と他者の違いに気付き尊重しようとする態度、さらによりよい人間関係を築く力を育成するために、中学校1年生を対象に、学校内、市内及び近隣の介護施設等でボランティア体験、福祉学習を実施します。		
対象【PLAN】	伊達市立中学校 第1学年生徒	意図【PLAN】	福祉施設でのボランティアを通じ、高齢者や障がい者との交流を図る。 福祉学習を通じて、福祉への理解を深める。
意図の実現のために必要なこと【PLAN】	高齢者や障がい者への理解を深め、思いやりの気持ちを育む。		

事業費【D0】		年度		04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
		単位		(実績)	(実績)	(予算)	(予算)	(予算)	(予算)
財 源 内 訳	国庫支出金	千円		0	0	0			
	都道府県支出金	千円		0	0	0			
	地方債	千円		0	0	0			
	その他	千円		0	0	0			
	一般財源	千円		866	764	678			
	事業費合計	千円		866	764	678			

(1) 伊達市第3次総合計画実施計画の「数値目標」の進捗に関する評価【D0】									
指標名	単位	達成条件	区分	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
福祉学習を通して高齢者に対する理解が深まった生徒の割合	%	実績値が目標値以上となること	目標値	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	
			実績値	98.0					
			達成率	100.0%					

(2) チェック項目による評価【CHECK】									
	評価視点				評価の結果				
必要性	・市民ニーズについてどうか ・社会的需要についてどうか ・事務事業の優先度については高いものであるか				福祉施設等も、中学生の体験を受け入れることで、福祉・介護の現場の理解を広めることにもつながり、感染症対策等の安全性が担保できれば受け入れたいと考える事業所が多い。				
有効性	・施策項目の目標達成に向けた事業効果については期待できるか ・市民満足度についてはどうか ・社会貢献度についてはどうか				今年度は、感染症対策のため校内での福祉学習であったが、アンケートの結果から、高齢者に対する理解と思いやりの気持ちを育み、豊かな人間性を育むために有効な事業となっている。				
効率性	・費用を抑える工夫は行ったか ・時間を削減する工夫は行ったか ・当初の計画より規模を縮小できる余地はあったか				今年度は、感染症対策のため事業所での体験ではなく校内での福祉学				

(3) 今後の方向性及び事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など【ACTION】									
今後の方向性	維持	事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など		福祉施設での体験学習を希望する学校が増えており、校内の福祉学習と合わせて効果的な事業となるよう継続した事業の運営を行う。					

事務事業評価表
令和5年度実施事業

部 長	課 長	係 長	担当者

事業名	中 2 職場体験事業					担当課	学校教育課				
基本目標	3	未来を拓く人を育む教育・文化のまち					担当係	指導係			
施策項目	2	学校教育					計画期間	令和 5 年度 ～ 令和 7 年度			
主な取組	2	「生きる力」を育む教育内容の充実					事業区分	直営			
予算科目	会計	款	項	目	大事業						
	1	10	3	2	中 2 職場体験事業						

目的と方針 【PLAN】	子どもたちが未来を拓く人材として心身ともに健やかに成長していくことができるよう、学校教育の充実を総合的に進めます。	
-------------------------	--	--

事業概要 【PLAN】	学ぶことの意義や働くことの意義を理解するとともに、社会の一員であることの自覚と主体的に自己の生き方を考える態度を育成するために、中学校2年生を対象に、学校内、市内及び近隣の事業所において職場体験学習、職業に関する学習を実施します。
----------------	--

対象 【PLAN】	伊達市立中学校 第2学年生徒	意図 【PLAN】	職場体験学習の充実を図る。
--------------	-------------------	--------------	---------------

意図の実現のために必要なこと【PLAN】	職業に関する理解と自立への意欲を育む。 社会で通用する言葉遣いや礼儀作法の基礎を身に付ける。
----------------------	---

事業費【D0】		年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
		単位	(実績)	(実績)	(予算)	(予算)	(予算)	(予算)
財 源 内 訳	国庫支出金	千円	0	0	0			
	都道府県支出金	千円	0	0	0			
	地方債	千円	0	0	0			
	その他	千円	0	0	0			
	一般財源	千円	554	527	503			
	事業費合計	千円	554	527	503			

(1) 伊達市第3次総合計画実施計画の「数値目標」の進捗に関する評価【D0】

指標名	単位	達成条件	区分	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
職場体験学習を通して職業に対する理解が深まった生徒の割合	%	実績値が目標値	目標値	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0
		以上	実績値	98.0				
		と なること	達成率	100.0%				

(2) チェック項目による評価【CHECK】

	評価視点	評価の結果
必要性	・市民ニーズについてどうか ・社会的需要についてどうか ・事務事業の優先度については高いものであるか	中学生が事業所での職場体験を行ったり、社会人を招いて学ぶことで、職業に対する理解だけでなく、地元の産業の理解につながる重要な機会である。
有効性	・施策項目の目標達成に向けた事業効果については期待できるか ・市民満足度についてはどうか ・社会貢献度についてはどうか	中学生が学ぶだけでなく、地元事業所の活動を学校や家庭に周知する機会にもつながっており、キャリア教育に加えて地元産業の振興にとっても有益である。
効率性	・費用を抑える工夫は行ったか ・時間を削減する工夫は行ったか ・当初の計画より規模を縮小できる余地はあったか	中学校区・近隣校区内での体験を原則とした地元での体験を奨励し、費用削減を図っている。

(3) 今後の方向性及び事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など【ACTION】

今後の 方向性	維持	事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など	感染症拡大防止のため、体験活動が実施できない時期があったが、事業所での体験活動が実施できるようになってきている。今後はキャリア学習の視点に限定せず、中学生の探究的な学習を支援できるようにしていく。
------------	----	-------------------------	--

整理番号
120

事務事業評価表

令和5年度実施事業

部 長	課 長	係 長	担当者

事業名	児童生徒の体力・運動能力向上事業					担当課	学校教育課					
基本目標	3	未来を拓く人を育む教育・文化のまち					担当係	指導係				
施策項目	2	学校教育					計画期間	令和5年度　～　令和7年度				
主な取組	2	「生きる力」を育む教育内容の充実					事業区分	全部委託				
予算科目	会計	款	項	目	大事業							
	1	10	1	3	児童生徒の体力・運動能力向上事業							
目的と方針【PLAN】	子どもたちが未来を拓く人材として心身ともに健やかに成長していくことができるよう、学校教育の充実を総合的に進めます。											
事業概要【PLAN】	児童生徒の運動不足や肥満傾向を改善するために、児童生徒の体力・運動能力、運動習慣等の状況を把握する新体力テストを実施し、その調査結果を分析することにより、学校の指導方法の工夫・改善を図ります。											
対象【PLAN】	市内の全児童生徒（小・中学生）				意図【PLAN】		運動生活習慣の実態把握を生かすとともに、児童生徒の運動意欲を高め運動の日常化を図る。					
意図の実現のために必要なこと【PLAN】	・新体力テストの結果から、各学年ごとに体力・運動能力の現状と課題を明確にする。 ・新体力テストの分析結果をもとにした自校の体力向上策を講じ、授業に反映する。 ・児童生徒一人ひとりの体力や健康の状態を把握し、個に応じた指導により運動能力や基礎体力を向上させる。											
事業費【D0】		年度		04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度			
		単位		(実績)	(実績)	(予算)	(予算)	(予算)	(予算)			
財源内訳	国庫支出金	千円		0	0	0						
	都道府県支出金	千円		0	0	0						
	地方債	千円		0	0	0						
	その他	千円		0	0	0						
	一般財源	千円		795	875	908						
	事業費合計	千円		795	875	908						
(1) 伊達市第3次総合計画実施計画の「数値目標」の進捗に関する評価【D0】												
指標名		単位	達成条件	区分	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度			
小学5年生、中学2年生の結果において、県の平均値よりも高い種目数		%	実績値が目標値以上となること	目標値	小学5年生 男女：6/8 中学2年生 男女：4/9	小学5年生 男女：6/8 中学2年生 男女：4/9	小学5年生 男女：6/8 中学2年生 男女：5/9	小学5年生 男女：6/8 中学2年生 男女：5/9	小学5年生 男女：6/8 中学2年生 男女：5/9			
				実績値	小学5年生 男女：6/8 中学2年生 男：4/9 女：6/9							
				達成率	100.0%							
(2) チェック項目による評価【CHECK】												
	評価視点				評価の結果							
必要性	・市民ニーズについてどうか ・社会的需要についてどうか ・事務事業の優先度については高いものであるか				実技による調査に加え、質問紙調査により、児童生徒一人ひとりの運動能力や体力だけでなく、運動習慣や生活習慣の状態を把握するため、学校や家庭における指導に役立てることが可能である。							
有効性	・施策項目の目標達成に向けた事業効果については期待できるか ・市民満足度についてはどうか ・社会貢献度についてはどうか				新体力テストの分析結果をもとに体育科の授業の改善を図ることとで、それぞれの学年の児童生徒に身につけさせたい体力や運動能力の育成を図ることができた。							
効率性	・費用を抑える工夫は行ったか ・時間を削減する工夫は行ったか ・当初の計画より規模を縮小できる余地はあったか				各学校において、新体力テストの実施を教育課程の中に位置づけ、全学年あるいは複数の学年が協力しながら、できるだけ短い時間の中で効率的に実施できるよう工夫して取り組んでいる。							
(3) 今後の方向性及び事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など【ACTION】												
今後の方向性	維持	事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など		・新体力テストを実施することによって、児童生徒の体力・運動能力を総合的に把握することができた。 ・各学年ごとの課題に応じて、体育科の指導に改善を加えることで、運動能力の向上を図ることができた。								

整理番号
121

事務事業評価表

令和５年度実施事業

部 長	課 長	係 長	担当者

事業名	学校給食センター運営事業（伊達・中央）					担当課	学校給食センター				
基本目標	3	未来を拓く人を育む教育・文化のまち					担当係	中央給食センター給食係			
施策項目	2	学校教育					計画期間	令和５年度　～　令和７年度			
主な取組	2	「生きる力」を育む教育内容の充実					事業区分	一部委託			
予算科目	会計	款	項	目	大事業						
	1	10	7	1	中央給食センター運営事業						
目的と方針【PLAN】	子どもたちが未来を拓く人材として心身ともに健やかに成長していくことができるよう、学校教育の充実を総合的に進めます。										
事業概要【PLAN】	安全安心で栄養バランスの取れた給食を児童生徒に提供します。										
対象【PLAN】	保原、霊山、月舘、梁川地域の幼稚園児及び小中学校の児童生徒				意図【PLAN】	地場産品を使用した、安心・安全・美味しい学校給食の提供					
意図の実現のために必要なこと【PLAN】	・食べ残しを減らすための献立の工夫（行事食、伝統食等の提供、食育） ・地場産品を活用した給食の提供										
事業費【D0】		年度		04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度		
		単位		(実績)	(実績)	(予算)	(予算)	(予算)	(予算)		
財源内訳	国庫支出金	千円		8,060	3,346	0					
	都道府県支出金	千円		461	454	0					
	地方債	千円		0	0	0					
	その他	千円		178,813	176,027	155,651					
	一般財源	千円		218,330	246,223	275,690					
	事業費合計	千円		405,664	426,050	431,341					
(１)伊達市第３次総合計画実施計画の「数値目標」の進捗に関する評価【D0】											
指標名		単位	達成条件	区分	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度		
学校給食アンケートの「おいしい」「まあまあおいしい」の選択率		%	実績値が目標値以上となること	目標値	76.0	77.0	78.0	79.0	80.0		
				実績値	80.7						
				達成率	100.0%						
(２)チェック項目による評価【CHECK】											
	評価視点				評価の結果						
必要性	・市民ニーズについてどうか ・社会的需要についてどうか ・事務事業の優先度については高いものであるか				学校給食法に基づき、栄養バランスのとれた豊かな給食を提供しており、成長期にある児童生徒の健康の保持増進と体位の向上に大きな役割を果たしているため、市民ニーズ、社会的需要度、事業としての優先度は高い。						
有効性	・施策項目の目標達成に向けた事業効果については期待できるか ・市民満足度についてはどうか ・社会貢献度についてはどうか				学校給食法に基づき、栄養バランスのとれた豊かな給食を提供しており、成長期にある児童生徒の健康の保持増進と体位の向上に大きな役割を果たしているため、社会貢献度は高い。学校給食アンケートでも８割以上の児童生徒が満足している。						
効率性	・費用を抑える工夫は行ったか ・時間を削減する工夫は行ったか ・当初の計画より規模を縮小できる余地はあったか				調理委託業務は長期契約をしており、経費削減に努めている。賄材料については、新鮮で安価な食材を発注している。						
(３)今後の方向性及び事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など【ACTION】											
今後の方向性	維持	事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など			近年の物価上昇により給食の質を維持することが困難になってくることが予想され、安価な材料の調達や適正な給食費について検討が必要とされる。 今後、児童数の減少や学校の統廃合などの要因により、市内の給食センターの統合などが考えられるため、関係部局との連絡調整が必要となってくる。						

整理番号
121

事務事業評価表
令和5年度実施事業

部 長	課 長	係 長	担当者

事業名	学校給食センター運営事業（伊達・中央）				担当課	学校給食センター
基本目標	3	未来を拓く人を育む教育・文化のまち			担当係	伊達学校給食センター給食係
施策項目	2	学校教育			計画期間	令和5年度 ～ 令和7年度
主な取組	2	「生きる力」を育む教育内容の充実			事業区分	一部委託
予算科目	会計	款	項	目	大 事 業	
	1	10	7	1	伊達学校給食センター運営事業	

目的と方針 【PLAN】	子どもたちが未来を拓く人材として心身ともに健やかに成長していくことができるよう、学校教育の充実を総合的に進めます。					
-----------------	---	--	--	--	--	--

事業概要 【PLAN】	安全安心で栄養バランスの取れた給食を児童生徒に提供します。					
----------------	-------------------------------	--	--	--	--	--

対象 【PLAN】	伊達地域の小中学校の児童生徒		意図 【PLAN】	地場産品を使用した、安心・安全・美味しい学校給食の提供		
--------------	----------------	--	--------------	-----------------------------	--	--

意図の実現のために必要なこと 【PLAN】	・ 食べ残しを減らすための献立の工夫（行事食、伝統食等の提供、食育） ・ 地場産品を活用した給食の提供					
--------------------------	--	--	--	--	--	--

事業費【D0】		年度 単位	04年度 (実績)	05年度 (実績)	06年度 (予算)	07年度 (予算)	08年度 (予算)	09年度 (予算)
財 源 内 訳	国庫支出金	千円	2,647	1,103	0			
	都道府県支出金	千円	155	166	0			
	地方債	千円	0	0	0			
	その他	千円	52,599	54,774	55,567			
	一般財源	千円	53,620	70,418	70,833			
	事業費合計	千円	109,021	126,461	126,400			

（１）伊達市第3次総合計画実施計画の「数値目標」の進捗に関する評価【D0】

指標名	単位	達成条件	区分	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
学校給食アンケートの「おいしい」「まあまあおいしい」の選択率	%	実績値が目標値以上となること	目標値	76.0	77.0	78.0	79.0	80.0
			実績値	83.5				
			達成率	100.0%				

（２）チェック項目による評価【CHECK】

	評価視点	評価の結果
必要性	・ 市民ニーズについてどうか ・ 社会的需要についてどうか ・ 事務事業の優先度については高いものであるか	学校給食法に基づき、栄養バランスのとれた豊かな給食を提供しており、成長期にある児童生徒の健康の保持増進と体位の向上に大きな役割を果たしているため、市民ニーズ、社会的需要度、事業としての優先度は高い。
有効性	・ 施策項目の目標達成に向けた事業効果については期待できるか ・ 市民満足度についてはどうか ・ 社会貢献度についてはどうか	学校給食法に基づき、栄養バランスのとれた豊かな給食を提供しており、成長期にある児童生徒の健康の保持増進と体位の向上に大きな役割を果たしているため、社会貢献度は高い。学校給食アンケートでも8割以上の児童生徒が満足している。
効率性	・ 費用を抑える工夫は行ったか ・ 時間を削減する工夫は行ったか ・ 当初の計画より規模を縮小できる余地はあったか	調理委託業務は長期契約をしており、経費削減に努めている。賄材料については、新鮮で安価な食材を発注している。

（３）今後の方向性及び事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など【ACTION】

今後の方向性	維持	事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など	近年の物価上昇により給食の質を維持することが困難になってくることが予想され、安価な材料の調達や適正な給食費について検討が必要とされる。 今後、児童数の減少や学校の統廃合などの要因により、市内の給食センターの統合などが考えられるため、関係部局との連絡調整が必要となってくる。
--------	----	-------------------------	---

事務事業評価表
令和5年度実施事業

部 長	課 長	係 長	担当者

事業名	特別支援介助員配置事業					担当課	学校教育課				
基本目標	3	未来を拓く人を育む教育・文化のまち					担当係	指導係			
施策項目	2	学校教育					計画期間	令和5年度　～　令和7年度			
主な取組	2	「生きる力」を育む教育内容の充実					事業区分	直営			
予算科目	会計	款	項	目	大事業						
	1	10	1	3	特別支援介助員配置事業						

目的と方針 【PLAN】	子どもたちが未来を拓く人材として心身ともに健やかに成長していくことができるよう、学校教育の充実を総合的に進めます。	
-------------------------	--	--

事業概要 【PLAN】	支援を必要とする児童生徒へ介助員を配置し、円滑な学級運営及び教育活動の充実を図ります。
----------------	---

対象 【PLAN】	支援を必要とする児童生徒	意図 【PLAN】	支援を必要とする児童生徒へ介助員を配置し、円滑な教育活動の充実を図れるようにする。
--------------	--------------	--------------	---

意図の実現のために必要なこと【PLAN】	・教員と特別支援介助員との連携 ・特別支援介助員の質的向上
----------------------	--

事業費【D0】		年度 単位	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
			(実績)	(実績)	(予算)	(予算)	(予算)	(予算)
財 源 内 訳	国庫支出金	千円	0	0	0			
	都道府県支出金	千円	0	0	0			
	地方債	千円	0	0	0			
	その他	千円	0	0	0			
	一般財源	千円	86,382	86,758	86,758			
	事業費合計	千円	86,382	86,758	86,758			

(1) 伊達市第3次総合計画実施計画の「数値目標」の進捗に関する評価【D0】

指標名	単位	達成条件	区分	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
特別支援介助員の配置数	人	実績値が 目標値 以下と なること	目標値	41	41	39	37	36
			実績値	41				
			達成率	100.0%				

(2) チェック項目による評価【CHECK】

	評価視点	評価の結果
必要性	・ 市民ニーズについてどうか ・ 社会的需要についてどうか ・ 事務事業の優先度については高いものであるか	児童生徒そのものは減少しているにもかかわらず、特別な支援を必要とする児童生徒数は増加しており、教員だけでは手厚い支援が難しく、介助員のニーズも増加している。
有効性	・ 施策項目の目標達成に向けた事業効果については期待できるか ・ 市民満足度についてはどうか ・ 社会貢献度についてはどうか	年度によって、特別な支援を必要とする児童生徒数は変化するが、ここ数年増加傾向にある。よって、介助員数を減らすことは難しいと考えられる。また、保護者も介助員の配置を望んでいるケースがあり、現状で介助員が足りていないケースもある。
効率性	・ 費用を抑える工夫は行ったか ・ 時間を削減する工夫は行ったか ・ 当初の計画より規模を縮小できる余地はあったか	研修会を実施し、介助員の質的向上を図り、介助員一人あたりが受け持つ児童生徒数を増やそうとしているが、児童生徒の実態も多様化しており、介助員数を削減するのは容易なことではない。

(3) 今後の方向性及び事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など【ACTION】

今後の方向性	維持	事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など	研修会を実施し、介助員の質的向上を図り、特別な支援が必要な児童生徒への対応を行っているものの、支援を必要とする児童生徒数は増える一方で、介助員を必要とする学校が減少しない。「子育て・相談」支援事業にも力を入れ、特別な支援が必要な児童生徒を減らしていくことが大切である。
--------	----	-------------------------	--

整理番号		123				事務事業評価表 令和5年度実施事業				部長	課長	係長	担当者					
事業名		「子育て・就学」相談・サポート事業				担当課		学校教育課										
基本目標		3		未来を拓く人を育む教育・文化のまち				担当係		指導係								
施策項目		2		学校教育				計画期間		令和5年度～令和7年度								
主な取組		2		「生きる力」を育む教育内容の充実				事業区分		直営								
予算科目		会計		款		項		目		大事業								
		1		10		1		3		教育相談事業								
目的と方針【PLAN】		子どもたちが未来を拓く人材として心身ともに健やかに成長していくことができるよう、学校教育の充実を総合的に進めます。																
事業概要【PLAN】		幼児とその保護者に対する早期からの困り感の発見と改善への支援、早期からの就学支援、幼児を取り巻く様々な問題への予防的取組を継続的に行うことで、小学校入学後の児童生徒の落ち着いた学校生活を実現します。																
対象【PLAN】		年中児、年長児およびその保護者 小学生、中学生				意図【PLAN】		特別な支援を必要とする児童生徒が早期から適切な学びの場で学べるように支援し、できるだけ早く支援の必要がなくなるようにする。										
意図の実現のために必要なこと【PLAN】		特別支援教育に関する事業の中で前倒しできるものは早期から行う。特に、年中児の保護者に対し、小学校入学を見通した講話、相談、支援を行い、早期から特別支援教育に対する意識の向上を図る。																
事業費【D0】		年度		単位		04年度 (実績)		05年度 (実績)		06年度 (予算)		07年度 (予算)		08年度 (予算)		09年度 (予算)		
財 源 内 訳	国庫支出金		千円				0		2,306		2,760							
	都道府県支出金		千円				0		0		0							
	地方債		千円				0		0		0							
	その他		千円				0		0		0							
	一般財源		千円				0		4,613		5,519							
	事業費合計		千円				0		6,919		8,279							
(1) 伊達市第3次総合計画実施計画の「数値目標」の進捗に関する評価【D0】																		
指標名		単位		達成条件		区分		R5年度		R6年度		R7年度		R8年度		R9年度		
幼稚園・こども園・保育園 などへの園訪問回数		回		実績値が 目標値 以上と なること		目標値		100		100		100		100		100		
						実績値		100										
						達成率		100.0%										
(2) チェック項目による評価【CHECK】																		
		評価視点						評価の結果										
必要性		・市民ニーズについてどうか ・社会的需要についてどうか ・事務事業の優先度については高いものであるか						年中児子育て相談に申し込みをする保護者の数が、当初考えていた数よりも多く、保護者の関心の高さがうかがえる。										
有効性		・施策項目の目標達成に向けた事業効果については期待できるか ・市民満足度についてはどうか ・社会貢献度についてはどうか						今年度、年中児の保護者との相談により、熱心に相談する様子から子育てや特別支援教育に関する意識の向上が図れたものと思われる。具体的には、次年度、年長児に対する早期教育相談会の申し込み状況などから有効性が評価できる。										
効率性		・費用を抑える工夫は行ったか ・時間を削減する工夫は行ったか ・当初の計画より規模を縮小できる余地はあったか						必要最小限の人員で事業を実施している。										
(3) 今後の方向性及び事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など【ACTION】																		
今後の方向性		拡充		事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など				当初は公立園の保護者を対象として想定していたが、声掛けによる私立園からの反響が大きく、たくさんの講話、相談、支援を実施することができた。本事業をさらに浸透させ、多くの保護者に関心をもっていただくとともに、早期から適切な学びの場で学ぶことができるよう支援していきたい。										

整理番号
124

事務事業評価表
令和５年度実施事業

部 長	課 長	係 長	担当者

事業名	就学援助事業（中学校）				担当課	学校教育課
基本目標	3	未来を拓く人を育む教育・文化のまち			担当係	庶務管理係
施策項目	2	学校教育			計画期間	令和５年度 ～ 令和７年度
主な取組	2	「生きる力」を育む教育内容の充実			事業区分	その他
予算科目	会計	款	項	目	大事業	
	1	10	3	2	就学援助事業（中学校）	

目的と方針【PLAN】	子どもたちが未来を拓く人材として心身ともに健やかに成長していくことができるよう、学校教育の充実を総合的に進めます。		
事業概要【PLAN】	就学援助対象者のうち中学３年生へ高校就学準備金として一律20万円を援助します。		
対象【PLAN】	中学３年生と保護者	意図【PLAN】	経済的理由により進学で悩む中学３年生と保護者のために高校就学準備金を支給します。
意図の実現のために必要なこと【PLAN】	事業の周知と速やかな審査と決定の実施。		

事業費【D0】		年度		04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
		単位		(実績)	(実績)	(予算)	(予算)	(予算)	(予算)
財 源 内 訳	国庫支出金	千円			0	0			
	都道府県支出金	千円			0	0			
	地方債	千円			0	0			
	その他	千円			0	0			
	一般財源	千円			8,000	12,000			
事業費合計		千円			8,000	12,000			

(１) 伊達市第３次総合計画実施計画の「数値目標」の進捗に関する評価【D0】									
指標名	単位	達成条件	区分	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
制度の周知状況	%	実績値が目標値以上となること	目標値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
			実績値	100.0					
			達成率	100.0%					

(２) チェック項目による評価【CHECK】									
	評価視点				評価の結果				
必要性	・ 市民ニーズについてどうか ・ 社会的需要についてどうか ・ 事務事業の優先度については高いものであるか				経済的理由により進学で悩む中学３年生と保護者のため就学準備金を支給することにより、進学の援助につながることで事業の優先度は高い。				
有効性	・ 施策項目の目標達成に向けた事業効果については期待できるか ・ 市民満足度についてはどうか ・ 社会貢献度についてはどうか				事業実施初年度ではあるが、周知により十分な効果が得られた。				
効率性	・ 費用を抑える工夫は行ったか ・ 時間を削減する工夫は行ったか ・ 当初の計画より規模を縮小できる余地はあったか				事業費予算については、ネウボラ推進課の子育て応援出産祝金支給の予算を縮小し、本事業の予算としていることから抑制は図られた。				

(３) 今後の方向性及び事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など【ACTION】									
今後の方向性	維持	事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など		事業実施初年度ではあるが、周知により十分な効果が得られたため、令和６年度以降も同様に進めることとしたい。					

整理番号 125					部 長 課 長 係 長 担当者					
事務事業評価表 令和5年度実施事業										
事業名		教育相談事業					担当課		学校教育課	
基本目標		3 未来を拓く人を育む教育・文化のまち					担当係		指導係	
施策項目		2 学校教育					計画期間		令和5年度 ～ 令和7年度	
主な取組		3 心の問題への対応					事業区分		一部委託	
予算科目		会計	款	項	目	大事業				
		1	10	1	3	教育相談事業				
目的と方針【PLAN】		子どもたちが未来を拓く人材として心身ともに健やかに成長していくことができるよう、学校教育の充実を総合的に進めます。								
事業概要【PLAN】		児童生徒の悩みや問題行動の解決に向け、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーを配置し、専門的な知見から教育相談を進める。また、不登校児童生徒の学校復帰を支援するため適応指導教室を開設し、指導員による支援を行う。								
対象【PLAN】		全ての小・中学生				意図【PLAN】		全ての小・中学生が安心して学校生活を送ることができるようにする。不登校児童生徒数を減少を目指す。		
意図の実現のために必要なこと【PLAN】		・SC、SSWを全小中学校に配置し、早期から児童生徒の悩みに対応する。 ・不登校児童生徒に対し、適応指導教室で指導を行い、学校復帰を目指す。								
事業費【D0】		年度			04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
		単位			(実績)	(実績)	(予算)	(予算)	(予算)	(予算)
財源内訳	国庫支出金	千円			0	0	0			
	都道府県支出金	千円			18,715	18,715	18,715			
	地方債	千円			0	0	0			
	その他	千円			0	0	0			
	一般財源	千円			1,071	1,407	1,407			
事業費合計		千円			19,786	20,122	20,122			
(1) 伊達市第3次総合計画実施計画の「数値目標」の進捗に関する評価【D0】										
指標名		単位	達成条件	区分	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
不登校児童生徒の割合(小学校)		%	実績値が目標値以下となること	目標値	0.80	0.75	0.70	0.60	0.50	
				実績値	0.76					
				達成率	100.0%					
不登校児童生徒の割合(中学校)		%	実績値が目標値以下となること	目標値	6.40	6.20	6.00	5.50	5.00	
				実績値	8.88					
				達成率	72.1%					
(2) チェック項目による評価【CHECK】										
評価視点					評価の結果					
必要性	・市民ニーズについてどうか ・社会的需要についてどうか ・事務事業の優先度については高いものであるか				・不登校になってしまった児童生徒の保護者がスクールソーシャルワーカーとの面談を希望するケースが増えている。 ・心が不安定な児童生徒及び保護者がスクールカウンセラーとの面談を希望している。 ・不登校児童生徒の居場所、学校復帰のきっかけとしての適応指導教室の設置場所を増やしてほしいとの要望がある。					
有効性	・施策項目の目標達成に向けた事業効果については期待できるか ・市民満足度についてはどうか ・社会貢献度についてはどうか				スクールカウンセラーとの面談により心が安定し、不登校に陥らずに済んだ児童生徒がいたり、適応指導教室から学校復帰を果たした生徒がいたり、スクールソーシャルワーカーと繋がることによりひきこもっている生徒が医療へつながったり、外出できるようになった事例がある。					
効率性	・費用を抑える工夫は行ったか ・時間を削減する工夫は行ったか ・当初の計画より規模を縮小できる余地はあったか				スクールカウンセラー派遣事業補助金、スクールソーシャルワーカー派遣事業補助金を活用し、費用を抑えるようにした。					
(3) 今後の方向性及び事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など【ACTION】										
今後の方向性	拡充	事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など		不登校の要因が複雑多様化し、不登校児童生徒数の減少は厳しい状況である。限られた予算の中で、次年度は適応指導教室を3カ所で実施し、足が遠のいていた生徒の居場所づくりをし、学校復帰、不登校児童生徒数の減少を目指す。						

事務事業評価表
令和5年度実施事業

部 長	課 長	係 長	担当者

事業名	学校地域支援連携（スクールコミュニティ）推進事業					担当課	生涯学習課				
基本目標	3	未来を拓く人を育む教育・文化のまち					担当係	生涯学習係			
施策項目	2	学校教育					計画期間	令和5年度 ～ 令和5年度			
主な取組	4	地域や大学等との連携強化					事業区分	直営			
予算科目	会計	款	項	目	大事業						
	1	10	5	1	地域の教育力向上事業費						

目的と方針 【PLAN】	子どもたちが未来を拓く人材として心身ともに健やかに成長していくことができるよう、学校教育の充実を総合的に進めます。	
-------------------------	--	--

事業概要 【PLAN】	「子縁」をととして地域と学校をつなぎ、地域全体の教育力の向上と学校を核とした地域コミュニティの形成を目指します。
----------------	--

対象 【PLAN】	市民・子ども	意図 【PLAN】	学校を核とした地域コミュニティの形成のため「スクールコミュニティ事業」を実施する
--------------	--------	--------------	--

意図の実現のために必要なこと【PLAN】	地域住民による学校支援や学校施設の地域開放、学校施設を利用した住民の学びや交流を進めるために、活動の拠点となる「スクールコミュニティセンター」に地域コーディネーターを配置し地域の教育力向上を図る。
----------------------	--

事業費【D0】		年度 単位	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
			(実績)	(実績)	(予算)	(予算)	(予算)	(予算)
財 源 内 訳	国庫支出金	千円	5,115	0	0			
	都道府県支出金	千円	0	0	0			
	地方債	千円	0	0	0			
	その他	千円	0	0	0			
	一般財源	千円	19,424	21,428	16,770			
	事業費合計	千円	24,539	21,428	16,770			

(1) 伊達市第3次総合計画実施計画の「数値目標」の進捗に関する評価【D0】

指標名	単位	達成条件	区分	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
スクールコミュニティセンター設置数	数	実績値が目標値以上となること	目標値	4	5	5	5	5
			実績値	4				
			達成率	100.0%				

(2) チェック項目による評価【CHECK】

	評価視点	評価の結果
必要性	・ 市民ニーズについてどうか ・ 社会的需要についてどうか ・ 事務事業の優先度については高いものであるか	地域の伝統、文化、歴史の継承を子どもに伝えたいというニーズがある。市民（地域）と児童の交流を通じて地域のニーズに答えることができる
有効性	・ 施策項目の目標達成に向けた事業効果については期待できるか ・ 市民満足度についてはどうか ・ 社会貢献度についてはどうか	基幹小学校に設置することにより各地域に公平にサービスを提供することができる
効率性	・ 費用を抑える工夫は行ったか ・ 時間を削減する工夫は行ったか ・ 当初の計画より規模を縮小できる余地はあったか	令和6年度人員の削減を行った。

(3) 今後の方向性及び事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など【ACTION】

今後の 方向性	維持	事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など	学校を核とした地域の活性（地域づくり）に繋げてきている。スクールコミュニティ地域コーディネーターの職務遂行にあたり、地域と学校の間に入り、連絡調整が円滑にできるよう、適宜アドバイスを行っている。
------------	----	-------------------------	---

整理番号 127		事務事業評価表 令和5年度実施事業				部長	課長	係長	担当者	
事業名		福島大学連携・協働事業				担当課		学校教育課		
基本目標		3 未来を拓く人を育む教育・文化のまち				担当係		指導係		
施策項目		2 学校教育				計画期間		令和5年度 ～ 令和7年度		
主な取組		4 地域や大学等との連携強化				事業区分		直営		
予算科目		会計	款	項	目	大事業				
		一般	10	1	3	福島大学連携・協働事業				
目的と方針【PLAN】		子どもたちが未来を拓く人材として心身ともに健やかに成長していくことができるよう、学校教育の充実を総合的に進めます。								
事業概要【PLAN】		平成24年度に福島大学と伊達市教委が協定を締結し、学校現場と大学・学生の連携協働の推進を図ります。								
対象【PLAN】		児童生徒			意図【PLAN】	福島大学の学生ボランティアが小・中学校の教育活動を支援することにより、学力、学習意欲の向上を図ります。また、福島大学の教授が教職員研修で指導助言を行うことにより、教職員の資質向上を図ります。				
意図の実現のために必要なこと【PLAN】		1 福島大学においてボランティア説明会を行い、学生の参加を促します。 2 福島大学教務課及び学生ボランティアコーディネーターと連携して、学生ボランティアが伊達市小中学校の学習支援に計画的に入れるようにします。 3 福島大学の教授が伊達市の教職員に指導助言を行う「伊達市教職員研修講座」を開催いたします。								
事業費【D0】		年度			04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
		単位			(実績)	(実績)	(予算)	(予算)	(予算)	(予算)
財源内訳	国庫支出金	千円			0	0	0			
	都道府県支出金	千円			0	0	0			
	地方債	千円			0	0	0			
	その他	千円			0	0	0			
	一般財源	千円			19	0	18			
事業費合計		千円			19	0	18			
(1) 伊達市第3次総合計画実施計画の「数値目標」の進捗に関する評価【D0】										
指標名		単位	達成条件	区分	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
児童生徒の学習支援に参加する学生の人数		人	実績値が目標値以上となること	目標値	1	2	3	4	5	
				実績値	2					
				達成率	100.0%					
(2) チェック項目による評価【CHECK】										
評価視点					評価の結果					
必要性	・市民ニーズについてどうか ・社会的需要についてどうか ・事務事業の優先度については高いものであるか				学生ボランティアが伊達市内の小中学校の学習支援に入り、児童生徒の学力や学習意欲の向上を図ることはとても必要なことです。また、福島大学の教授が伊達市の教職員に直接指導助言を行うことも、教職員の資質向上に必要なことです。					
有効性	・施策項目の目標達成に向けた事業効果については期待できるか ・市民満足度についてはどうか ・社会貢献度についてはどうか				学生自身にとっても、「学校現場の様子が分かる」「児童生徒との関わり方が学べる」など、学生が教職の魅力を感じ、教員を目指そうとする貴重な経験となっています。教員不足の解消にもつながる事業です。					
効率性	・費用を抑える工夫は行ったか ・時間を削減する工夫は行ったか ・当初の計画より規模を縮小できる余地はあったか				ボランティアに参加したいという学生を増やすために、福島大学が開催した「学校ボランティア説明会」に参加し、伊達市小中学校の紹介と具体的な活動の内容の紹介をしました。また、交通費の負担など参加しやすい環境をつくっています。					
(3) 今後の方向性及び事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など【ACTION】										
今後の方向性	維持	事業全体を通して評価できた点、課題や改善点など			学生ボランティアによる児童生徒の学力向上の目的に加え、学生自身が活動の喜びや充実感を味わい、教員を目指そうとする契機となる事業です。交通費の負担など、今後も学生が参加しやすい環境を整備します。また、福島大学の教授に伊達市の教職員が直接指導を受ける機会を増やし、福島大学との連携を一層充実させていきます。					